



三条北ロータリークラブ週報

ENJOY ROTARY!

ロータリーを楽しもう!

国際ロータリー会長 ヒュー M. アーチャー 第256地区ガバナー 吉野一郎

例会日

1990. 1 . 23

累計 No 155

当年 No 26

会長/平松利朗

幹事/稲田憲治

SAA/笹原勝治

例会日/火曜日 PM12:30~1:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局/三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行事: 「クラブフォーラム」ロータリー情報委員会 目黒宣行君

出席: 本日の出席 49名中37名

先週の出席率 49名中40名 81.63%

12月の出席 会員数49名 例会数4回 平均出席率87.50%

先週のメークアップ: 1月11日 見附RCへ 石川勝行君

1月17日 三条RCへ 梨本清一君 山上茂夫君

1月22日 三条南RCへ 加藤実君 山上茂夫君

ビジター: 三条RCより 松谷晃吉君 高森昭光君 山浦日出夫君 榎本勝君

五十嵐晋三君 外山雅也君

16日(記帳) 三条RCより 大谷幸平君 堀川政雄君 五十嵐晋三君

会長挨拶: 平松利朗

久し振りの降雪で町の中が白一色に変わってしまいました。雪のない暖かい冬で、誠に過ごし易く、いいあんばいだと喜んでおったんですが、ここへ来て、とうとう降ってしまいました。もっとも今の時期、「寒」に入っているわけですから降って当たり前なのですが。梨本前会長が挨拶の中か何かで、三条の町のイメージを色で例えると灰色になるという話を紹介してくれましたが、今日の町の中は白一色で、窓からの眺めは別の町のようにあります。さて、先日「県央に四年制大学の誘致を」の呼掛けで準備会が開かれ、出席して参りました。三条市内のいろいろの団体の代表の方々が出席され、私も北RCの代表ということで出席致しました。内容については一部、三条新聞などでも報じられたので、ご存知の方もあると思いますが、新潟、長岡、上越、柏崎と主な市には既に大学があり、近々、新発田にも設置が決まった。ところが県央には1つもない。是非、県央にも四年制大学を、ということでもあります。大学誘致のメリットは何でしょうか?人材の育成と地元への定着です。町の活性化にもつながります。何よりも町に「うるおい」をもたらします。先程の灰色に象徴される町、物作りだけの産業の町に文化の香り、生活の余裕みたいなものを生み出しま



す。具体的には加茂市にある「新潟中央短大」の四年制昇格ということになるわけですが、成否は県央地元住民の盛り上がりにあるということです。時あたかも県央30万都市構想が進んでおります。発起人の一人である北RCの会員として、また県央の一市民としても、この大学誘致運動を支え、お互いに応援していきたいものです。

幹事報告： 本間副幹事

◇創立20周年記念式典のご案内

①佐渡RC

日時 5月20日(日) 会場 吉田家ホテル

②群馬境RC

日時 5月27日(日) 会場 境町立境小学校

◇妙高高原RC「親善スキー大会」のご案内

日時 1月25日(木) 会場 妙高高原赤倉観光スキー場

◇米山記念奨学会より寄付金明細書の送付がありました。

◎皆出席表彰（通算）

対象11月、12月入会者

25年間 （三条RCより移籍）

中條耕二君 S39.11.第2週入会

3年間 S61.12.第1週

芦田義重君 平松利朗君 樋口金占君 今井克義君 村山誠一君 高橋彰雄君

2年間 S61.12.第1週

山上茂夫君

1年間 S61.12.第1週

羽賀一夫君 堀川正幸君 山崎 勲君

ニコニコボックス：

五十嵐英雄君 22日午後1時30分頃オカチマチ道路カンボツ事件3分前で命拾シマシタ。

加 藤 実 君 明けましてお目出度うございます。本年、初めての出席です。

馬場直次郎君 16日倒れた祖母が峠を越え回復方向へむかったことを祝って。

佐藤啓策君 次女が、新潟清心女子高等学校へ合格しました。

外山晴一君 遅らばせながら謹賀新年。

今井克義君 雪の新潟をはなれてゴルフ同好会で房総へゴルフへ行ってきました。

本間茂男君 今シーズン初すべりを1月14、15日行って来ました。お天気にめぐまれ快適でした。

村山誠一君

鈴木英友君 次女が市民かるた大会に優勝いたしました。

山崎 勲 君 平成2年も頑張っています。

ロータリー財団：

山崎 勲 君 財団BOXさん頑張って下さい。御協力致します。

クラブフォーラム： ロータリー情報委員会 目黒宣行君



1月はロータリー理解推進月間ということで、情報委員会に時間をいただきました。ロータリー情報委員会の任務は、新会員に特典と責務を十分に理解させること、またクラブ全会員に絶えずロータリーの歴史、規模、活動、国際ロータリーの管理運営の動向についての情報を提供することにあります。今回はその歴史の中でロータリーの誕生について少し触れてみます。1905年2月23日、夜、そのころ経済恐慌で人心の荒れすさんでいたアメリカ社会、特にシカゴの状態を憂えた弁護士のパール・P・ハリスが3人の友人、すなわち石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターパス・E・ローア、仕立業のハイラム・ショーレーらと語ったのが初まりであり、その後2月23日を創立記念日、2月を世界理解月間と定めた。ロータリーの名称は例会を各家庭または事務所を持ち回りで行なったことと、役員が1年毎に交代し、持ち回るというローテーションに由来する。次に、最近のロータリー情報について触れてみます。1989年2月のRI理事会において、Rotary Volunteers in Action (R V I A) ロータリーボランティア活動というプログラムの実施が決まりました。これは1989—90年度を含め3年間の試行ということです。その概要は、ロータリアンは広範な職業分類から選ばれた多彩な能力や技術の持主であり、これを人々の生活改善と向上のために提供をしようという奉仕活動で、物や資金の提供による奉仕活動とは区別されます。技能の提供者はロータリアンが中心となるがローターアクター、財団学友、これらの配偶者でも良い。各クラブはR V I Aコーディネーターを指名し、この人を中心にR V I A委員会を編成する。この委員会は国際奉仕委員会の中に位置づけするが、奉仕の対象によっては社会奉仕委員会でも良い。R V I A委員会は地元でのボランティアニーズを調査する（需要）一方、提供できる技能を募る（供給）。各クラブ単位での需要と供給のマッチングはむずかしいので、各地区のR V I A委員会でクラブをまたがったマッチングの手助けをする。また、地区を越えた国際的なボランティア活動はRIで需要と供給の一覧表を作るのでアーチャー氏はとにかく仕事を楽しんだと語っており、このへんから「エンジョイ・ロータリー」という言葉が出てきていると思います。また、アーチャー氏はロータリーについては、ロータリーが今後とも発展していくにあたって、常に広い視野をもちつづけることを期待し、そして健全な発展を遂げるには、過度に専門化しないことが必要だと語っており、そして発展のあらゆる段階を楽しむことが必要だとも語っておられる。

1月30日例会： 1990年「新年の集い」さどや

2月6日例会： クラブフォーラム「2月は、国際理解月間」